

バリュー株ポートフォリオ分析

基準日: 2026年7月
作成: A. I. P 株式会社

セクターローテーション分析で選好する「金融・資本財・素材」から厳選する割安株戦略

1 前提となるマクロ環境分析（2026年7月現在）

① セクターローテーション分析との整合

今月のセクターローテーション分析で「強気」評価とした情報技術・金融・資本財・素材・一般消費財のうち、低PER・低PBR・高配当というバリュー株的特性に最も合致する金融・資本財・素材の3セクターから銘柄を厳選する。

② 日銀追加利上げが追い風の金融株

政策金利1.00%への引き上げに続き、7月または年内の追加利上げが観測される中、預貸金利ざやの改善期待からメガバンク株への資金流入が続く。歴史的なバリュエーションの割安さも残る。

③ 資本財・素材は防衛・インフラ需要が下支え

防衛予算の増額観測とインフラ投資の拡大が、重工業・素材セクターの受注環境を下支え。半導体一本足からの資金ローテーション先としても選好されている。

④ 円安が輸出関連の資本財・素材に追い風

ドル円162円台の円安は、資本財（三菱重工・コマツ）や素材（信越化学・日本製鉄）の海外売上高を円換算で押し上げる方向に作用する。一方、金融株は日銀の追加利上げそのものが直接的な追い風であり、金利・為替の両面からバリュー株全体を下支えする構図となっている。

2 最適な構成比率と主要投資指標

■ ポートフォリオ目標配分

金融 (40%)	資本財 (30%)	素材 (30%)
-------------	--------------	-------------

※セクターローテーション分析でオーバーウェイトと判定した金融・資本財・素材の3セクターに均等分散に近い配分で投資し、単一セクター集中リスクを抑えつつバリュー株特有の割安修正益を狙います。

■ ポートフォリオ予想総合指標（加重平均）

約 11倍

平均PER

6銘柄

組入銘柄数

約 1.0倍

平均PBR

3セクター

対象セクター数

約 3.5%

平均配当利回り

6~9%

期待トータルリターン

3 採用銘柄・ETFの詳細分析

銘柄名（コード） ／比率	主要指標	株価上下要因・現在の位置	選定理由・スポンサー評価
金融 三菱UFJフィナンシャル・グループ (8306)	PER: 約10倍 配当利回り: 約3.7%	日銀の追加利上げ観測を受け、メガバンク株全般に資金流入が継続。歴史的な低PBR水準からの見直し買いが続く。	国内最大の金融グループとして金利上昇の恩恵を最も受けやすく、自己株買いなど株主還元強化も評価材料。
金融 三井住友フィナンシャルグループ (8316)	PER: 約11倍 配当利回り: 約3.4%	海外事業の収益寄与拡大と国内金利上昇が両輪で業績を押し上げ。	収益性の高いリテール・法人ビジネスに強みを持ち、増配余地の大きさがバリュー株としての魅力を高める。

銘柄名（コード） ／比率	主要指標	株価上下要因・現在の位置	選定理由・スポンサー評価
資本財 三菱重工業 (7011)	PER: 約16倍 配当利回り: 約1.8%	防衛予算の増額観測とエネルギープラント需要の拡大で受注残高が積み上がる。	防衛・エネルギー・航空機の複合コングロマリットとして、AI設備投資からの資金ローテーション先としても物色されやすい。
資本財 コマツ (6301)	PER: 約14倍 配当利回り: 約3.0%	インフラ投資拡大と資源価格の底堅さを背景に建設機械需要が回復基調。	世界的な建機シェアと安定したキャッシュフロー創出力があり、配当利回りの高さもバリュー株として魅力。
素材 信越化学工業 (4063)	PER: 約15倍 配当利回り: 約2.1%	半導体シリコンウェハー需要の底堅さと、塩ビ樹脂事業の価格転嫁が業績を下支え。	高い自己資本比率と世界トップシェア製品群を持ち、素材セクターの中でも質の高いバリュー銘柄。
素材 日本製鉄 (5401)	PER: 約8倍 配当利回り: 約4.3%	インフラ投資・防衛関連の鋼材需要増と、中国景気の底打ち期待から見直し買いが入りやすい局面。	極めて低いPERと高配当利回りを両立しており、素材セクターの中でも典型的な深いバリュー株。

4 資金投下・時間分散戦略（2段階投資の執行）

【第1弾】現在（2026年7月）：資金の50%を即時投入

セクターローテーション分析で選好する金融・資本財・素材はいずれも歴史的な割安水準にあり、まずは予算の半分以上を上記の配分比率（40:30:30）で買い付け、配当利回りの権利を確保します。

【第2弾】秋口（2026年9～10月）：残りの50%を投下

11月米中間選挙前後のボラティリティ上昇局面で調整が入れば、残りの50%資金で押し目買いを執行し、取得単価を最適化します。

5 出口戦略（売り時・利益確定の目安）

■ キャピタル利益確定とリバランスの最適タイミング

① 金融株：追加利上げの織り込みが完了した局面

日銀の利上げサイクルが年内の想定ゴール（1.25%前後）に到達し、材料出尽くしとなったタイミングで一部利益確定を検討します。

② 資本財・素材株：長期保有（維持）またはリバランス

防衛・インフラ関連の受注は複数年にわたる長期テーマであるため、基本は保有継続とし、配当を受け取りながら業績の上方修正を待つのが王道戦略です。



本資料は情報提供を目的としたものであり、特定の投資行動を勧誘・保証するものではありません。投資の最終決定はご自身の判断で行ってください。
A.I.P株式会社 2026年7月作成